



【特集】学校法人 シモゾノ学園「国際動物専門学校」「大宮国際動物専門学校」

《プロフィール》

同学園は54年の歴史を持つペット事業の老舗「青山ケンネル」から生まれた動物の総合専門学校。東京(世田谷)と埼玉(大宮)に校舎があり開校から14年間で3,000人余の卒業生を動物業界に送り出している。動物業界において大切なことは、動物についての専門知識や技術だけでなく、学んだ知識を活かせる「実行力」、動物への「思いやり」、そして飼い主さんをはじめとする人との「コミュニケーション能力」であると考え、2009年より「7つの習慣J」をカリキュラムに採り入れている。現在では在籍する学科を問わず、全学生が初年度に受講している。

7つの習慣Jの導入目的を実現するために必要な運営ルール・管理方法を組織的に徹底されているシモゾノ学園の取り組みを聞きました。

下 衛子 理事長 インタビュー



Q1: 専門学校で7つの習慣J(以降7HJ)を導入した理由を教えてください。

当学園は開校以来、動物に関わる専門的な知識や技術を修得させること、そして資格を取得して就職することについては実績がありました。私が理事長に就任し今後どのように学園の教育の質を高めていこうかと考えているときに「7つの習慣J」を知りました。確かに当学園の学生達は動物の職業人として必要な知識と技術を身につけて卒業いたします。しかし社会に出たときには、知識と技術を活かすための「主体性、協調性、挑戦力、積極性」等の人間力が必要です。私は学園が『人としての教育』に力を入れることが社会に巣立つ学生に対し何より大切なことで、専門職教育の質を高めるとともに学園の魅力を増し、存在価値を高めることと思いました。

『人としての教育』を通して、学生が『生き抜く力』を持てば、その結果として中途退学者が減少し、就職後の離職率も低下すると確信しています。その『人としての教育』を具体的にどのように組み立てようかと悩み社会人教育や倫理教育など様々なプログラムを検討しましたが、どれも取り入れるには至りませんでした。そのような時に「7つの習慣J」を知りました。そして導入を決めました。

もちろん1年間の「7つの習慣J」だけで18年生きてきた学生に人間力を身につけさせられるとは思っていません。しかし、学生が社会に出て苦境に立たされたときに、「逃げずに挑戦しよう」と思ってもらえれば良いと思っています。人は立ち上がる力を絶対には持っていますので！

Q2: 7HJの成功のために理事長が重視していることはありますか？

授業後のフォローと、日常の学園全体のあり方が大切だと思います。

7HJは人の思考を掻き乱す部分が少なからずあります。だから、授業後のフォローをしっかりとしないと学生が混乱しマイナスに働くこともあると思います。7HJ授業をただで終わってしまっただけでは学園の一方的な満足ではありません。「自分に目を向けてくれる人がいる」ということを学生に感じてもらうことが大切です。そして日常でも、全教職員が手本とする行動を取っていることが大切だと思います。

Q3: フォローはファシリテーターだけでされていますか？

まず、当校ではファシリテーター(以降FT)と担任の役割を分けています。

FTは『気付きを引き出す特別な存在』で生徒の憧れの存在となるよう指導しています。担任は『いつもそばにいて正しい方向へ導いてくれる存在』で生徒が心を割って話せる存在となるよう指導しています。当然、担任も7HJのことを理解していなければなりません。そのために、担任は7HJ授業にチーム・ティーチング(以降

【特集】学校法人 シモゾノ学園

TT)で補佐役として参加しますし、年1回7HJ勉強会も実施しています。担任は若い人材が多いので指導者として若さゆえの未熟さもありません。7HJを通して担任も育てていきたいと思っています。

下 藺 莉 恵 ファシリテーター(副理事長) インタビュー



Q: 7HJを通して生徒に何を心得て欲しいですか？

自分の求めるものを早い段階で見つけて欲しいです。業界の先輩として、学生自身がまだ気づいていない動物業界の社会的意義や動物福祉の大切さ、職業としての働きがい等を伝えていきたいです。そのために、私は自分の失敗談も含めた事例をたくさん交え、「今大変でも乗り越えれば必ず手に入れられるものがある」ことを伝えていきます。7HJは心に踏込む授業です。自分と向き合う強さを持つことで生き抜くチカラを身に付け、7HJを通じて、自分を信じて夢・目標に向かって諦めずに歩いていこう！と思ってもらえるように心がけております。

飯 田 幸 代 ファシリテーター インタビュー



Q1: FTとして具体的にどのようなフォローをされていますか？

FCエデュケーションから推奨されている授業マネジメントシート(振り返り・感想シートの集計)を取り、データとして取りまとめ授業結果として報告していましたが、あるとき事業部長から「クラス平均を見ている意味がない、ひとり一人を引き上げることをしなくてはいけない」と言われ、学生ひとり一人の状況把握を徹底するために、『個人別成長管理シート』という独自の管理をスタートさせました。個人別成長管理シートはFTが授業後に、学生ひとり一人の授業意欲、習熟度、成長度合を入力し、さらに各学生についてメモを書きこむものです。この学生はこの言葉に反応したとか、この概念は理解不足だから

フォローするとか、こんな相談を感想シートに書いてきたなどです。月1回のFT会議では、各FTから提出されたシートをプロジェクターで映し、各クラスの状況から各学生のことまで、気付いたことはすべて共有します。この管理を始めてからそれぞれの学生への理解が深くなり、コメント返信もその学生の過去の様子をふまえて書けるようになりました。ただ担当授業数・学生数が多いFTや、7HJ以外で学生と接触する機会があるFTにとっては負担が大きくなっているようです。7HJは手をかければかけるほど成果が出ますので、何をどこまでするのかを判断するのは難しいですね。

Q2: 担任との協力を強めるためにどのような活動をされていますか？

担任が7HJや授業内容を理解すること、授業中にTTとして動いてもらうことが必要です。ですからそれらを伝え続けるため、月1回、担任とFTが授業内容のミーティングをすることをルールにしています。TTにおける担任の役割は、授業中の勇気づけと、7HJの授業以外の日常で学生に常に毎週のチャレンジを思い出させるよう声掛けをすることです。また、担任はFTに授業の感想やフィードバックをし、そのクラスに合ったより良い授業を展開できるよう話し合いをしています。振り返り・感想シートは、必ず担任にも見てもらい、学生の状況を共有しています。

Q3: 『人としての教育』として7HJはどのような効果がありますか？

中途退学者を減らすという目標があっても、今までは学生の心や学校に対する意欲を把握するツールがありませんでしたが、振り返り・感想シートによってそれを手に入れることができました。学生の生の声がかかれていますので、教職員が学生指導に活かすことで退学防止に実際に繋がっています。

Q4: FTとして日々の授業で重視されていることはありますか？

私は、学生が感動する授業をするように心がけています。感動とはスライドの中の事例でも、パラダイム転換でも、自分の事例でも何でもいいのですが、感動してもらうためには私自身が授業内容を腹に落とし、自分の色を付けて、自分の言葉で授業をしなければなりません。感動は感情が伴うものです。感情が伴うと人間は行動に移す確率が高くなるので、いかに学生に感動をしてもらい、行動に移すきっかけや環境を整えられるかをいつも試行錯誤しています。FTは気付きたきっかけを与え、担任がそれを日常で行動にするように声掛けをするという、良いTTができているのではないかなと思っています。

授業の成功は学生がFTを信頼していることと、FTとして認めていることも重要ではないでしょうか。そのため授業では前向きで優しく幸せな人物を演じますし、実生活でもそのような人物になれるよう努力しています！

このような体制で専門学生に7HJを実施している同校の7HJ受講生とその就職先の方にもインタビューさせて頂きました。

